

**場所** 神奈川県小田原市

**面積** 77.2ha

**活動目的** 里地里山としての役割を最適バランスさせ、先人の想いと未来を繋ぐ数百年単位の永続的な美しい森創りを担っている。



## サイト概要

本サイトは、神奈川県小田原市久野・荻窪の箱根外輪山裾野に位置し、樹齢300年の大木林、二次林、梅林、竹林、果樹園等の里地里山の環境が形成され、江戸時代から辻村家が管理・所有している。

①素材生産（木材、梅、筍、蜜柑）、②エネルギー創出（太陽光発電、水力、薪炭、バイオマス）、③生態系保全（希少生物保護、生物多様化、獣害対応、自然果実の保護）、④余暇提供（フォレストアドベンチャー、フォレストバイク、森林体験）をミッションとして掲げ、将来を見据えた先進的多角経営を行っている。

## 土地利用の 変遷

本サイトは、元小田原藩の直轄地で、当時の山は、松以外には灌木中心の草刈り場又は薪炭林だったと思われるが、1700年代の徳川時代に、小田原城下町の発展・災害対応により木材需要が急増して、天然林はほぼ伐採され尽くされたと推測され、その頃の植林された杉やサワラの大径木が100本余り残っている。大正時代から造林樹種として檜が植えられた。第二次世界大戦以降は山林梅林経営に軸足を移し、現在の林分の大部分は第二次大戦後の植林である。

## サイト周辺の 環境

本サイト周辺には、人工林を中心とした森林エリアが広がっているが、管理減退が進んでいる。本サイトに隣接する辻村植物公園は、申請者が小田原市に土地を譲渡し、小田原市が運営している。本サイト北部（本サイトの一部を含む）には、環境省指定の重要里地里山（久野地区）が広がっている。

## アピール ポイント

本サイトは、申請者が68haもの広大な土地を一括管理している。本サイトは小田原市役所の自然環境調査において市内の多様性の高い地域10地点の1つに指定されている。また、里地里山の豊かな自然を体験できる場であり、小田原市内の環境活動拠点として、申請者が会長を務める「おだわら環境志民ネットワーク」によるフィールドワーク、「おだわら市民学校」の基礎課程講座、小田急ハンターバンク（農林業者とハンターとのマッチングサービス）への参加協力等の活動を積極的に実施している。また自然共生型アスレチックであるフォレストアドベンチャー・小田原やマウンテンバイクの施設フォレストバイク、地域資源を使ったテントサウナ等、自然にインパクトを与えない自然環境共生型リクリエーション事業を運営している。更に大正時代に作られた小水力発電所の遺構の見学ツアーなど里山に根ざした再生可能エネルギーの普及促進を図っている。

## 生物多様性の価値

## 価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

## 【選定されている制度名】

環境省 重要里地里山 No.14-18 名称：久野

## 【選定理由や内容】

市の北西部に位置し、箱根山の麓に広がる農村地区である。田んぼとコンクリート化されていない水路が残り、良好な里地里山環境が保たれている。一帯は久野丘陵とも呼ばれる地域であり、フクロウ、ムササビ、ニホンカナヘビ、ホオジロやシジュウカラなど、里地里山に特徴的な種が多数確認されている。



写真の説明：フクロウ



写真の説明：ニホンカナヘビ

## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

本サイトでは、樹木環境に生育・生息する植物（クロモジ、ウワミズザクラ、アオキ等）、哺乳類（イノシシ等）、鳥類（コゲラ、ヤマガラ、シメ等）、爬虫類（タカチホヘビ等）、昆虫類（ヒグラシ、クロアゲハ、アカハナカマキリ等）が確認されている。

## 【主な植生】

本サイトには、主にスギ・ヒノキ・サワラ植林、他にクヌギーコナラ樹群、竹林、常緑果樹園が存在している。沢沿いの窪地には、胸高直径80cm～1m20cm、樹齢250～300年の大杉が存在している。

## 【確認された主な動植物など】

- 植物10種（クロモジ、シロバナハンショウヅル、アケビ、ミツバアケビ、ウワミズザクラ、カタバミ、マサキ、アオキ、ヤマツツジ、マルバフジバカマ）
- 哺乳類6種（アズマモグラ、イタチ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンノウサギ、ホンドギツネ）
- 鳥類8種（コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、ジョウビタキ、オオタカ、ホオジロ、フクロウ）
- 両生類3種（シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル）
- 爬虫類5種（ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ）
- 昆虫類5種（クツワムシ、ヒグラシ、アサヒナカワトンボ、オニヤンマ、オオゴキブリ）

※2017年度～2019年度に行われた小田原市役所自然環境調査で確認された動植物に加えて、申請者団体等による日々の調査で確認された主な動植物を追記。



写真の説明：コゲラ



写真の説明：シマヘビ

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

価値（3）ページの【場の概況】と同じ。

・木材、梅、筍、蜜柑を生産し出荷している。

【きまつり】は本サイトを含むエリアを会場として、毎年開催される小田原市主催のイベント。体験プログラムを盛り込んだ森林体験ツアーをはじめ、ムササビ散策ツアー等のイベントを毎年実施している。

## 【主な植生】

価値（3）ページの【主な植生】と同じ。

## 【確認された主な動植物など】

価値（3）ページの【確認された主な動植物など】と同じ。

ニホンミツバチ(梅林付近)

小田原市役所が定める「小田原の森里川海街を指標する種」は以下のとおり。

- 植物：クロモジ、アケビ、ミツバアケビ、ウワミズザクラ、アオキ、ヤマツツジ、マルバフジバカマ、等
- 鳥類：ウグイス、ジョウビタキ、フクロウ
- 爬虫類：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ
- 昆虫類：クツワムシ、ヒグラシ



写真の説明：梅(白加賀)



写真の説明：蜜柑

## 生物多様性の価値

## 価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

## 【場の概況】

価値（3）ページの【場の概況】と同じ。

## 【伝統文化等の名称】

## 【小田原城等の木造建築】

申請者が代表の会社（辻村山林）が構成団体を務める「おだわら森林・林業・木材産業再生協議会」において、小田原市産木材の小田原市等での木造建築への提供を推進している。

## 【活用している自然資源】

2016年小田原城天守閣大改修にて摩利支天像の間の改修工事に樹齢300年生のスギの八角柱を提供した。

2017年報徳二宮神社の表参道鳥居を建立する際に、辻村山林にある樹齢300年のスギを提供した。



写真の説明：報徳二宮神社の鳥居建立



写真の説明：天守閣大改修に用いるスギの伐木

## 生物多様性の価値

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

## 【場の概況】

価値（3）ページの【場の概況】と同じ。

## 【確認された希少種】

価値（3）ページの【確認された主な動植物など】のうち、レッドデータブック等の掲載種は以下のとおり。

- 哺乳類：ホンドギツネ（神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006 準絶滅危惧）
- 植物：1種



写真の説明：ホンドギツネ

写真の説明：

## 生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

## 【場の概況】

本サイト北部には、神奈川県自然環境保全地域（久野）及び神奈川県の鳥獣保護区（いこいの森）が広がっている。

## 【主な植生】

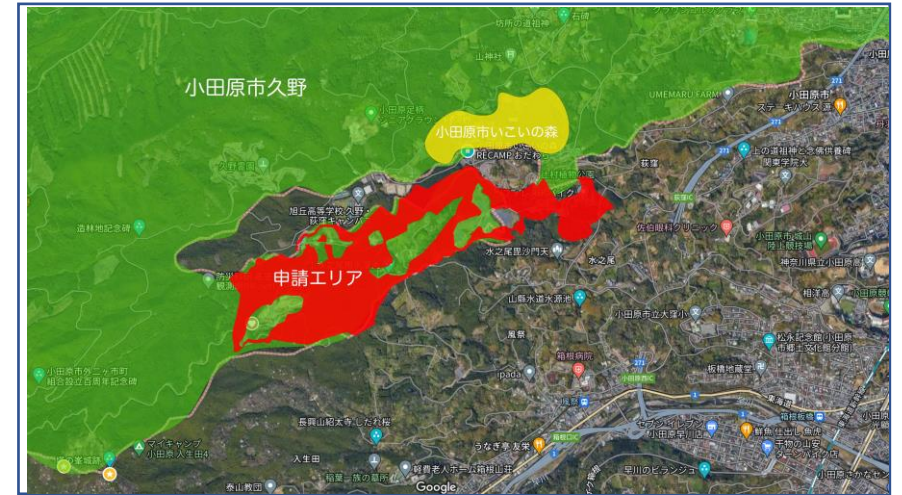
自然環境保全地域（久野）には、箱根外輪山の南斜面で南に相模灘を臨み北側は国立公園に接する地区でスギ、ヒノキの植林地とモミ林、風衝低木林がある。

## 【隣接・接続する保護地域等】

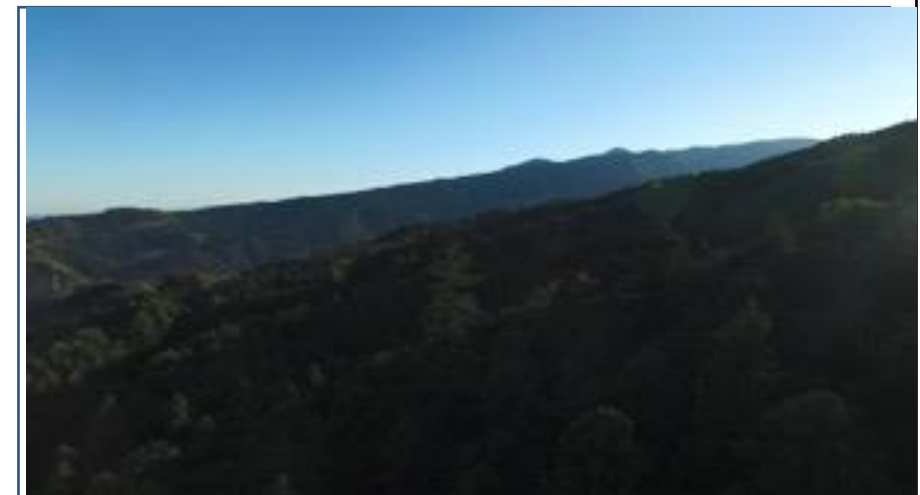
神奈川県自然環境保全地域（久野）  
神奈川県鳥獣保護区（いこいの森）

## 【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

辻村山林より流れる川が久野地区で久野川、山王川と合流する。山林整備をし、土砂の流出を防ぎ、自然環境保全地域及び鳥獣保護区の保全を行っている。



図の説明、出典：辻村山林の隣接領域図



写真の説明：辻村山林と久野地域



## サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>&lt;活動目的&gt;            本地域の自然と、地域における人と自然との関わり方を次世代に伝えるとともに、体験を通して生物多様性の大切さを普及すること。</p> <p>&lt;活動内容&gt;            申請区域を①二次林ゾーン、②農園ゾーン、③自然林ゾーンに分けて、上述の価値(1)～(6)、(9)の保全に貢献するよう以下の保全・利用活動を行う。</p> <p>①二次林ゾーン：このゾーンでは、ムササビやキツツキなどが生息している場所、農業用水を得られる場所として、間伐や下草刈りなどの森林管理を旨とするほか、薪材等の限定的な利用を行う（価値(1),(3),(4),(5),(6)）。</p> <p>②農園ゾーン：竹林、梅林、果樹園として毎年農業を継続する。ミツバチなどに配慮して減農薬栽培を引き続き行う（価値(1),(3),(4),(6)）。</p> <p>③自然林ゾーン：基本的に自然の成り行きにまかせ、人為的な介入は行わない（価値(2),(9)）。</p> <p>&lt;実施体制&gt;            株式会社T-FORESTRYが中心となってこれら保全・利用活動その他維持管理作業を行う。二ホンジカの食害対策等は専門家の助言を得る。</p>	<p><b>【モニタリング対象】</b>            鳥類、両生類、昆虫類、植物を対象とする。</p> <p><b>【モニタリング場所】</b>            ①二次林ゾーン：二次林内に設定したルート沿い            ②農園ゾーン：5地点            ③自然林ゾーン：自然林内に設定したルート沿い</p> <p><b>【モニタリング手法】</b>            指定エリアに生息する動植物の種同定や分析を行う。</p> <p><b>【モニタリングの実施時期及び頻度】</b>            ・2年に1回。            ・モニタリング実施年の1月、5月、9月に実施。</p> <p><b>【モニタリング実施体制】</b>            株式会社T-FORESTRYの職員が中心となって実施。市民参加型モニタリングも実施。種同定や分析、計画立案の助言は有識者に協力を要請。</p>